

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○山崎智弘 松尾淳司

【概 要】

公衆衛生学は、私たちの暮らしている社会や環境状況を基に人々の健康に与える影響を調査し、疾病予防や健康増進につなげる学問である。臨床検査技師は、臨床検体を正確に検査するだけでなく、医療従事者として健康に影響を与える社会的、自然的環境要因を測定し、データの持つ意味を理解し、そして人々の健康状態と生活の質（QOL）の向上に貢献する必要がある。そこで本実習では、公衆衛生学的側面から水質検査、食品検査、環境検査におけるデータの測定法とその評価法について学ぶ。

【学習目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識と技術を習得するために、公衆衛生学の概要を理解する。
- 2) 生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけるために、公衆衛生学の実験方法を理解する。
- 3) 問題や研究課題の発見と、解決に向けた科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけるために、発表テーマをグループで設定し課題解決の方法について考察する。
- 4) 水質評価に必要な理化学試験の概要を説明できる。
- 5) 水質評価に必要な細菌試験の概要を説明できる。
- 6) 食品添加物評価に必要な試験の概要を説明できる。
- 7) 環境検査の物理・化学的な検査方法の概要を説明できる。
- 8) 公衆衛生学的な調査法を習得し、統計解析を用いて結果を正しく評価できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 }	オリエンテーション	・実習概要	山崎智弘
2			
3 }	水質の理化学検査1	・硬度	山崎智弘 松尾淳司
5			
6 }	水質の理化学検査2	・鉄、残留塩素 ・水質検査キット	山崎智弘 松尾淳司
8			
9 }	空気・水質の細菌検査	・空中落下細菌 ・一般細菌と大腸菌群	山崎智弘 松尾淳司
11			
12 }	食品検査1	・着色料	山崎智弘 松尾淳司
14			
15 }	食品検査2	・保存料	山崎智弘 松尾淳司
17			
18 }	環境検査	・騒音、気湿、照度	山崎智弘 松尾淳司
20			
21 }	まとめ	・実習内容のまとめ	山崎智弘
23			

【評価方法】

課題レポート 50% 発表 50%
→課題レポート 50% 定期試験 50%

【備 考】

教科書 ： 使用しない

その他 ： 初回に実習書を配布する。

【学習の準備】

実習書の該当範囲を事前に読んでおく。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。